

第 6 回菊池市総合計画策定審議会 議事録

I. 概要

日時：2021 年 11 月 1 日（月） 13：30～15：30

場所：菊池市市役所 3 階 305 大会議室

参加：委員 上野委員、山本委員、泉委員、田中委員、岩根委員、工藤委員、加來委員、
松永委員、最上委員、緒方委員、佐藤委員、増住委員、山口委員、北村委員、
福田委員、中里委員

※欠席 城委員、合志委員、坂田委員、古津委員

菊池市役所企画振興課 後藤部長、中川課長、上野課長補佐、井島係長、高木参事
地総研 内藤（文責）

※以下敬称略

II. 会次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

（1）第 3 次総合計画基本構想 前期基本計画（案）について

（2）その他

4. 閉会

Ⅲ. 議事詳細

発言者	内 容
事務局	1 開会 本日は委員 20 名中 16 名参加。条例の規定の通り過半数超となり本審議会は成立する。
会長	2 会長挨拶 新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せており、衆議院選挙も終了した。これから 2 時間程度、菊池市の最上位計画策定に協力いただき。今回が実質的な審議の最後となるので、皆様から積極的に意見をいただきたい。
会長	本日の議事は一つ。事務局に説明をお願いします。
事務局	3 議事（1）第 3 次菊池市総合計画 基本構想 前期基本計画（案）について 議事の前に報告がある。委員として参画いただいていた、環境推進委員の中村様については一身上の都合により委員辞退の届け出があり、受理している。 次に、委員より資料の事前確認書をいただいた。確認書の申し出の通り修正する。今回は資料作成に時間を要し、確認の時間が十分にとれなかったため、事前の質問が難しかったと思われる。本日は多くのご意見をお願いしたい。それでは計画素案について説明する。 計画素案は全体的に読みやすいように修正した。分野別施策については新たに成果指標を追加、目標値を設定している。前回の審議会から大きく変更した箇所は、下線を引いている。 主な変更点として、P21 に高校生アンケート結果を追加した。委員の中からアンケート結果追加の要望があったため追加している。また、文章の流れを鑑み、第 3 章「基本計画」の第 2 節、第 3 節を入れ替えている。大きな変更点は以上となる。ここまでの部分を一括で審議願いたい。
会長	計画の総論的な部分となる文言について、前回よりも読みやすくシンプルに修正をしてもらった。ここまでに質問や指摘をお願いしたい。
委員	第 3 章「基本計画（総論）」とあるが、総論部分は第 1 節から 3 節までになり、第 4 節「分野別施策」は各論になると思われる。総論を見出しに入れるかを含め整理が必要と思われる。
会長	第 3 章は、後半部分が各論であり、ボリュームが大きい。二部構成とする、各論部分にあたる第 4 節を第 4 章に変更するなど工夫が必要である。

委員	P26 の土地利用イメージ図について。本日はモノクロだが、最終的にはカラーになると理解している。図表内の文字が小さいと思うので文字のフォントを大きくしてもらいたい。P18 や P19 の相関図、比較表についても重要な部分だが、文字が見えづらいので、見やすくなるように工夫をお願いしたい。
委員	P12 から P13 にかけての農林畜産物について、菊池市では水田ごぼうが全国的に有名なので、追加記載の検討をお願いしたい。水田ごぼうは GI（地理的表示）にも登録されており、菊池市を代表する農産物である。
会長	追加の検討をお願いする。 また、P1 の「ごあいさつ」と P5 の第 1 章第 1 節「1. 計画策定の趣旨」の文章が似通っている。ページが近いのでどちらかを短くするなど、工夫をすることで対応してもらいたい。 他にご意見がなければ、次の説明をお願いする。
事務局	ここから分野別施策を説明する。全てを説明するのではなく、分野ごとに簡潔に説明していく。それぞれ 15 分程度で審議をお願いしたい。 「産業と経済」の分野について。主な指標として、施策 1 に成果指標として「がんばるふるさと菊池応援寄附金」の寄附件数を示している。現状と課題に記載してある通り、菊池市への寄附件数は県下 14 市で最下位。返礼品の充実などにより寄附者の満足度を高める必要がある。R7 年度に 52,300 件とする目標を設定した。次に施策 2 の成果指標の観光入込客数について。観光資源の魅力化や観光基盤の強化に資する具体的取組を実施していくことで達成していく。目標の根拠は、コロナの影響がある前の観光客数となっている。次に施策 3 の成果指標として、新規就農者数と「菊池基準」の登録人数を示している。菊池市の新規就農者数は県内トップクラスとなっている。この数値を維持するために年 20 人を目標としている。「菊池基準」については、市独自の安心安全な農作物の生産基準。登録者数を増やすことで有機農業の推進につなげる。最後に、施策 6 の成果指標に創業支援者のうちの創業件数を挙げている。市が実施する創業支援事業の効果を図るものであり、創業支援を行った対象の中での創業件数を把握していく。年 10 件を目標に掲げている。創業支援事業は起業塾やセミナーなどを実施していく。産業と経済については以上が主な指標となる。ご意見をいただきたい。
会長	「産業と経済」の分野の施策について成果指標や目標値が適切か、という視点から意見をいただきたい。

委員	商工業の振興に関する成果指標について。1項目のみであり、数が少ないと感じる。数値化しづらい面もあると思われるが、そのほかの指標も検討してもらいたい。地元就職の促進の視点であれば、学生の地元就職率などが挙げられると良いと感じる。
会長	企業誘致も商工業の振興の取組みに含まれるのか。
事務局	企業誘致の取組は商工業の振興に含まれるが、誘致に適した土地が余っておらず、目標として掲げるのは難しい。
委員	観光の振興の成果指標のうち観光入込客数はコロナ禍前の水準とのことだったが、宿泊客数についても同様か。
事務局	その認識で間違いない。
委員	もう一点は、P49の注釈の番号が重複しているため、変更をお願いしたい。
委員	施策1. 関係人口の拡大について。市の総合戦略を確認したが、その中で印象に残った文言は「人・物の交流を行って外貨獲得を行う」というもの。菊池ファンクラブ会員数が関係人口を増やすという成果指標として適しているか疑問である。前期の総合戦略では交流人口の増加について触れてあったが、関係人口を増やすことが菊池市の発展にどうつながるのかを考えて成果指標を検討する必要がある。関係人口が定住人口でも交流人口でもないということであれば、ファンになった人がどのように菊池市に影響を与えるのかを考える必要がある。商工業の振興の成果指標として創業支援者のうち創業件数が挙げられていたが、関係人口を増やすことが創業にもつながり、成果として挙げられるといった考え方が必要である。日本の人口が減少する中、国の地方創生の打開策として関係人口が考えられた。菊池市では、関係人口創出事業が2019年から開始されているのに対し成果が示されていない。国の方針に迎合することなく、関係人口を拡大することで外貨獲得につなげていかなければならない。ふるさと納税でも返礼品の価値で競っており、不毛だと感じる。地方創生につなげるための具体的施策を検討し、関係人口を増加させ外貨獲得につなげるための考えを示してほしい。
会長	今の話は市の総合戦略に関わる。基本目標1の交流のまちづくりにあたり、関係人口を増加させることで仕事を創出するなど総論的な文言が入ると良い。関係人口の拡大にあたり、菊池ファンの創出拡大が最初に目に入るためミスリードにつながる。総合戦略の関連施策として整理が必要だと感じる。施策1の成果指標の記載内容について、「がんばるふるさと菊池応援寄附金」がふるさと納税のことだとわか

	りづらいので、ふるさと納税制度と前に挿入した方が良いと思う。施策 1 について議論を課内で実施してもらいたい。大学の講義では、「関係人口」については過疎地の振興と紐付けて話をする事が多い。関係人口の意味を整理することで施策との関係が見えてくる。
委員	畜産業の振興の成果指標に肉用繁殖牛の飼養頭数があるが、牛から出されるメタンガスの問題があるため、飼育頭数を増やすと脱炭素の視点ではマイナスとなる。量より質だと思うので、質の向上とブランディングの強化が必要だと考える。 農業の振興の施策で知っておいてもらいたいことがある。熊本県ではゲノム編集作物が栽培されている。また、ある事業者が全国の福祉施設や学校などにゲノム編集作物を無償配布するという話を聞いた。事業者側は話題提供によってゲノム編集作物への抵抗感を減らし、普及させることを目的としているものと思われる。ゲノム編集作物への注意喚起文を学校に送付する等の対策をお願いしたい。
事務局	計画の中で示すことは困難である。ゲノム編集作物の問題については担当課へつなぎ、検討する。
会長	技術の進歩をどのように日常生活で利用していくのかを考えることが必要である。遺伝子操作した食物等をどのように取り扱うのかについては社会的コンセンサスもとれていない。牛のメタンガスが環境問題にマイナスの側面があるという話をすると、そもそも牛の代替を検討する必要がある、畜産や農業を生業にされる方にとっては難しい問題である。ここでは 8 年間の菊池市における農林畜産業の方向性を定めることが必要だと感じる。 それでは、次の分野の説明をお願いする。
事務局	子育てと健康福祉の分野に移る。施策 7 の成果指標については、保育所の待機児童数ゼロ、病後児保育の受入率を 95% という目標を立てている。子育て支援に関する関心は高い。待機児童数ゼロは現在ゼロであるため、継続していくというもの。病児・病後児保育の受入については、共働き世帯が増える中、対応が必須となる。施策 8 の成果指標で特定検診の受診率を掲げている。検診受診率を上げることで未病対策につなげる。施策 9 の成果指標は住民運営の通いの場個所数を掲げている。施策 12 の成果指標について、地域サロンの立ち上げ地区数は地域住民の交流や生きがいづくり、仲間づくりのためのサロンを増やすというもの。93 ある地区数を 118 地区まで増加させることでふれあいの場を増やす。
委員	2 点質問。菊池市は不妊治療への補助は行っているのか。不妊治療

	の支援がないのであれば菊池市としてやっていく必要があると思う。もう一つは特定検診受診率について。どのように算出しているかを教えてもらいたい。
会長	後で確認をお願いする。
委員	子育て支援の充実の取組に病後児保育施設の整備とあるが、現在何か所あって今後何か所に増やすのか数値が知りたい。また、健康づくりと医療体制の充実の成果指標に大腸がん検診受診率の目標値が1%増加で示されているが、目標が低いと感じる。状況を教えてもらいたい。これは高齢者福祉の充実の要介護（支援）認定率も同様。合わせて状況を教えてもらえるとありがたい。
事務局	病児・病後児保育施設は現在1か所。ただ1か所では少なく、増設の必要があるので整備増設等により対応していくという話が担当課からあった。大腸がん検診については目標を1%の上昇としているが、具体的に人数を1年あたり50人増加させる方向で考えており、割合で示すと低い伸び率となる。要介護率については上昇傾向にあるものを、上昇幅を減少させるために介護予防に取り組むというもの。上昇幅を減らすために0.2%の増加に留めるという目標にしている。
会長	大腸がん検診は国保での受診での割合になるのか。生産年齢人口は社会保障にほぼ加入していると思われるので正確には計算できないのではないか。要介護支援は助成する側の視点だと感じる。市民の視点でみると認定率が低いことから心配になるのではないかと思う。高齢者を介護していく上で、認定基準に入らず、苦勞しているというのが実情だと思う。高齢者や障がいがある人が暮らしやすくなるような成果指標を検討してほしい。
委員	高齢者福祉の充実の成果指標に、通いの場を増やすというのがある。また、地域福祉の充実の成果指標に地域サロンがあるが、住民運営の通いの場はサロンのことである。子育て支援の充実に記載されている地域サロンも子どもだけでなく、高齢者が集まる場となる。担当課に確認してもらい、地域サロンの立ち上げ地区数に住民運営の通いの場が含まれると注釈を入れてもよいかと思う。
委員	要介護支援の認定率について、会長から話があったが同感である。補完するような説明がない。本市は健康年齢が低いため、健康年齢を引き上げる取組みをした上で、要介護・要支援率が高まらないようにする必要があるというのであればわかる。前段で説明を行い、いつまでも元気で住んでもらいたいということを説明しておく必要がある。
委員	子育て支援の充実の成果指標で、待機児童ゼロの継続を行うことは

	良いことだと思うが、待機児童は H27 からゼロとなっている。別の成果指標を載せてもいいのではないかと感じる。このまま掲載するのであれば、待機児童ゼロを継続する手段の記載が必要である。
事務局	現状と課題に載せているが、保育士の確保が困難になってきている。今回の取組で、保育士の人材バンク登録を積極的に推進し、待機児童ゼロを継続させるという意味。この指標はこれからの 4 年間も重要だと感じている。
会長	待機児童数ゼロは他自治体と比較すると素晴らしい成果である。困難を乗り越えて継続するということが伝わるようにするか、さらに保育の質の面で良好な保育の状況を目指すことができるといった指標があれば良いと感じる。
委員	保育士の人材バンク登録数などを示すといいのではないか。現在の登録者数が何人だから何人まで増やすという表現がわかりやすい。
会長	担当課と検討をお願いします。続いて自然環境と暮らしの基盤の説明をお願いします。
事務局	自然環境と暮らしの基盤の分野に入る前に委員からの質問に答えたい。不妊治療に関しては菊池市も補助を行っている。また、県による補助もあるが、来年度から制度の変更がある。当初計画に盛り込んでいたが、制度がどのように変わることが不明であり、担当課の要望で取組みから削除している。次に、特定検診受診率は 40～75 歳までの特定検診受診者数を被保険者数で除して算出している。
委員	不妊治療については少子化が進む中、子どもを欲する家庭に強く求められるため、是非補助金を増やしてほしい。また、特定検診については国保に該当する人でも、人間ドックで検査を行っている人は対象にならないと思われる。算定方法については検討してもらいたい。
委員	国保での人間ドックは私も受けている。潜在的受診者がいると思われるので対応は検討した方が良い。
事務局	では、自然環境と暮らしの基盤の分野の主な指標について説明する。施策 13 の成果指標の 1 つ、世帯当たりのごみ排出量は、年間ごみ排出量を R11 年度までに基準値から 10%削減するという目標から逆算して設定。施策 14 の成果指標、環境学習の実施は各学校で行われているのではなく、市が直接出向いて実施するもの。次に経営管理集積計画策定件数の成果指標は森林環境譲与税に関わっている。計画が必要な個所の半数を今後 4 年間で策定するという事で 80 件を目標としている。施策 15 の成果指標は、緑化や美化活動を行うボランティアグループを増やす、ガーデニングコンテストの応募件数を増

	やすというもの。施策 16 の成果指標に、防災士登録者数を 187 名から 500 名に増やすという目標をあげている。施策 17 の成果指標では、交通事故や刑法犯罪数の指標を掲げている。施策 18 の成果指標として宅地面積をあげている。施策 19 の成果指標でべんりカー、あいのりタクシーの利用者数増加を掲げている。施策 20 の成果指標として給水区域内の水道普及率等 4 つを掲げている。意見をいただきたい。
委員	防災・消防体制の充実の防災士登録者数の成果指標について。登録者を増やしているのはわかるが、活動がなく予算もないと聞いている。話し合いもしているが、前進しておらず、登録者を増やしても中身が伴わなければ意味がない。
委員	防災士についてわかる範囲で説明する。活動は総会を一度開催した後、コロナ禍によって開催できていない。委員の改選も書面決議となっている。今後の活動は感染症の動向を確認しながら活動していく。予算については未計上である。皆で検討してどのように防災士委員会を進めていくかを検討していく。
委員	私も防災士になっているが、ここ 3 年で研修の受講者数が減り続けている。防災について小学校と連携してまち歩きの研修を計画している。研修はあっているが参加する人が少ないため、参加を呼びかける必要がある。
委員	防災・消防体制の充実の取組に示されている受援計画とは何か。
事務局	自治体間や各種団体等との対外的な応援受入体制について示された計画と聞いている。
委員	注釈を入れた方が良いと感じた。
委員	受援計画は熊本の場合、相互応援協定がある。大規模災害発生時の連携協定に基づいて他の自治体から応援を受け入れる。支援を受け入れる側も準備が必要であり、更に自治体だけでなく警察や自衛隊も受け入れる。受援計画は受け入れ準備をどのようにするかを示してあるものとなる。
会長	ここは説明不足だと感じるので、注釈をつけるかわかりやすく表現するようにしてもらいたい。
会長	脱炭素・循環型社会の実現の成果指標にリサイクル率があるが、意外と低い数字だと感じる。それに、リサイクル率が成果指標にあるにも関わらず、施策実現のための取組に記載がない。取組と成果がつながっているかの見直しを全体的にしてもらいたい。
委員	道路・交通体系の整備の施策について。最近、泗水に大きなマンシ

	ョン等ができている。新たに移り住んでくる人も多い。なぜかという と市民の目線が熊本市内を向いているからだと思う。高校生アンケートで半数以上が菊池市に戻ってきたいと回答しているが、実際には戻ってこない。若い人もお年寄りも都会の利便性を感じれば戻りたくないと思う。これからどれだけ時間がかかるかわからないが、熊本菊池間 30 分構想などドラスティックな表現を盛り込んでもらいたい。菊池市と熊本市の距離感は近い。菊池の今後を考えると交通インフラの整備は必要不可欠である。実現しなければ限府も空洞化の危険があるため、少々風呂敷を広げていいと思う。市民に夢と希望を与えるためにもぜひお願いしたい。もう一つ、総合計画に合うかわからないが、今は道路が整備されていないと感じる。どのように管理しているかわからないが、側溝は泥で詰まっているし、法面は雑草がたくさん生えている。整備された都市空間があればそれだけで人が増えると思うので、環境整備を行うことを総合計画に記載してほしい。
会長	整備されていない都市空間について、市道の管理をしてもらいたいという要望だと思うが、たとえば西原村では道路品評会という面白い取組がある。地区ごとに競い合わせ、素晴らしいところを表彰するというもの。市民協働もたくさんの視点があるが、美しい市に住むという文化性を磨くというのもいいのではないかと思う。
委員	地域の道路の清掃活動は市民がボランティアで行っている。若い人、消防団がいらないため高齢者が実施しているのが現状である。理想と現実があるので最低限の美化を実現するための仕組みを作ることが必要である。理想と指標が乖離しているので、できることから始めることが求められる。具体的にどのようにするのかを決めないといけない。 例えば、消防士と防災士の位置づけは何なのか、年次で見直しを行い小さいことから実現しないと理想には近づけられない。
会長	成果指標も項目と目標値はあるが、重要性がわからず、プロセスを見ることができない。今の意見も含めて検討してもらいたい。
委員	防災士の項目に消防団員等とある。防災士の役割と消防団の役割は違うと思う。防災士の資格を持った人は出動事由が発生した際はどちらで活動するのか。防災交通課の担当だと思うが、防災士と消防団の役割を明確に分ける必要があるのでは。防災士でも消防団登録ができるのか。整理した方が良いと感じる。
会長	消防団と防災士は制度の趣旨が違うと思う。1 人に両方の役割が期待されると対応できないということなのか。

委員	消防団員も防災士を取得し、日頃は消防団、災害等発生時に防災士として活動してほしいという表現に見えた。しかし、二つ同時に活動の必要性が発生したときに役割がわからなくなる。役割を明確に分けなければ機能しないのではと感じる。
会長	災害時には消防団として行動すると思う。防災士は専門的な知識を深めるという位置づけとなっており、両者の役割を求めているように書いてあることで混乱する。制度として別の話なのでうまく整理して記載をお願いしたい。 それでは、次の説明をお願いする。
事務局	まず施策 21 の主な成果指標について。県学力学習状況調査の目標値を挙げているが、目標値は県の目標値を上回る水準としている。中学校については、現状県を下回っているため、県の目標値の同数を目標としている。施策 22 の主な指標についてキクロスカレッジの修了生数とあるが、これから開講予定であり現在は修了生がいない。これからの目標を掲げている。また、図書館の貸出冊数は現状も増加傾向にあるものを、今後も年次で増やすことを目標としている。施策 23 の成果指標としてスポーツクラブの種目数があるが、種目を増やし、様々なスポーツに触れる機会を作ることによってスポーツ人口を増やすことを目指す。施策 24 の成果指標についてデジタルコンテンツデータ数があるが、現状の 3,000 点を 5,000 点に増やすことを目標としている。施策 25 の成果指標については、人権同和教育研究大会の初参加の人数を増やすことを考えている。施策 26 については、男女共同参画講座・研修等の参加者数を指標として挙げている。ご意見をいただきたい。
委員	学校教育の充実の現状と課題の 5 つ目の文章に誤字があるため修正をお願いしたい。
委員	スポーツの推進の成果指標にあるスポーツクラブ種目数について。部活動からスポーツクラブに変わり、中学校もスポーツクラブに移行するとなっている。指導者となる我々が学ぶ場が必要だと感じる。勝利主義に偏重し、子どもたちの指導方法を指導者が理解していないと子どもが危険な目に遭うこともあるため、指導者の教育の場を作っていきたい。また、コロナ禍で体育館の利用制限があったことや、社会体育課から体育館の利用に関する連絡がこなかったこともある。連絡体制の構築が必要である。
会長	人権教育・啓発の推進の取組に人財育成の推進とある。「人財」という表現は最近、経営者や企業の職員募集で使われているが、一般的

	な表現ではない。これまで通り人材という表現がいいのではないか、検討してほしい。
委員	歴史文化の保存と継承の取組に文化財保存の拠点施設の整備とあるが具体的に何をするのかがよくわからない。また、同じく社会クラブ化の促進は具体的に何をするのか。さらに、成果指標に郷土学習実施校数とあるがこちらも具体的にどういうことを実施するか教えてほしい。
事務局	文化財保存の拠点施設の整備については、具体的実施事項について確認をしていない。確認の上回答する。成果指標の学校への郷土学校実施校数については、現在、郷土学習を1校実施しているが他の学校にも広めていくというもの。
委員	1校は菊池北小だと思うがそれ以外に指導者を派遣して、校数を増やすということか。
事務局	菊池北小以外にも展開すると聞いているが具体的な方法は確認していない。担当課に確認の上回答する。
会長	それでは、最後の分野の説明をお願いする。
事務局	最後に市政運営の分野について。施策27の主な成果指標として、市長と語る会の新規参加者数とあるが昨年度はコロナの影響で開催できていないため、新規参加者数はゼロとなっている。令和元年度に200人参加していたものを1,000人に増やすというもの。施策28の成果指標でマイナンバーカードの交付枚数率を挙げている。施策29の成果指標ではインフラ系を除く保有施設数を示しているが、基準値である226施設を180施設に減らすというもの。ご意見をお願いしたい。
委員	開かれた市政の推進に市民参画の促進の取組があるが、ここだけ読むと具体的に何を実施するかがわかりづらい。詳しく書けるのであれば書いた方が良く感じた。施策の目的の2段落目に具体的に示されている。また、効率的な行政運営の現状と課題に事務処理のRPAとあるが、RPAが何かわからない市民がいると思われるので注釈が必要とを感じる。
委員	市政に関する情報はHPや各種SNSで情報を開示するとあるが、メールでの情報発信は実施しているのか。
事務局	防災行政ナビを使った伝達手段と安心安全メールを活用している。
委員	安心安全メールや防災行政ナビで市長との意見交換会やパブリックコメントなどの情報を発信すれば市民の市政への参画が促進されると思われる。

委員	財政基盤の強化の取組に個別施設計画とあるが、基本的に道路や側溝の整備は市の仕事だと思う。実施するからには報告を行い、せめて1年間に1回は自ら見に行く必要がある。そのために個別施設計画があると思うし、成果指標として挙げる必要性を感じる。
会長	こちらの個別施設計画は市民会館等の個別計画であり、道路等インフラは含まれないと思う。
委員	インフラの管理がおざなりになっていると思うので検討してもらいたい。
会長	担当課と検討をお願いします。
会長	効率的な行政運営の成果指標にマイナンバーカードの交付枚数率があるが、個人的にはマイナンバーカードで業務が効率化していると思わない。自治体業務の効率性が向上するような指標を検討してもらいたい。
委員	検討事項一覧に自校式の給食がなくなるとあるが、旭志小と旭志中は違うのか。
事務局	旭志小と旭志中はそもそも自校式ではないため、現行どおり行っていくとのこと。
会長	次回は皆様に承認いただいた後、市長へ答申となる。事前に本日の意見を踏まえた修正後の計画素案が送付されると思う。意見は先に伝えておいてもらいたい。 事務局より（2）その他の説明をお願いします。
事務局	次回が最終の策定審議会。11月24日の午前10時から開催する。今回いただいた意見をもとに修正を行い、最初の30分間で最終確認を実施する。その後、市長参加のもと、意見交換を行う。
事務局	以上で第6回菊池市総合計画策定審議会を閉会する。